

証券コード 6379

レイズネクスト株式会社 決算説明会資料

2025年3月期

レイズネクスト株式会社

目 次

1. 2025年3月期決算	・ ・ ・ 3	3. 第3次中期経営計画	・ ・ ・ 18
1) 事業環境	・ ・ ・ 4	(2025年度～2028年度)	
2) 業績概要	・ ・ ・ 5	1) 第2次中期経営計画の成果	・ ・ ・ 19
3) 受注高	・ ・ ・ 6	2) 第2次中期経営計画の振り返り	・ ・ ・ 20
4) 完成工事高	・ ・ ・ 7	3) 第3次中期経営計画の基本戦略	・ ・ ・ 21
5) 完成工事総利益・営業利益	・ ・ ・ 8	4) 第3次中期経営計画のテーマ	・ ・ ・ 22
6) 当期純利益	・ ・ ・ 9	5) 第3次中期経営計画の取組み	・ ・ ・ 23
7) 受注残高	・ ・ ・ 10	6) 第3次中期経営計画経営数値目標	・ ・ ・ 24
8) 貸借対照表	・ ・ ・ 11	7) 資本コストや株価を意識した	・ ・ ・ 25
2. 2026年3月期業績見通し	・ ・ ・ 12	経営の実現に向けた対応	
1) 業績見通し	・ ・ ・ 13		
2) 受注高・完成工事高	・ ・ ・ 14		
①開示分類の変更	・ ・ ・ 15		
②新開示分類での予想	・ ・ ・ 16		
3) 2025年3月期配当予定	・ ・ ・ 17		
および2026年3月期配当予想			

1. 2025年3月期決算

1) 事業環境

●石油業界

石油製品の構造的な需要減少により製油所の統廃合（閉鎖）が進行

⇒製油所跡地への太陽光発電所建設、SAFや合成燃料等の低炭素燃料製造装置の検討が進む…新たなプラント建設が具体化

⇒プラント信頼性向上のためのメンテナンス需要が増加

●電力業界

脱炭素に向け新たにアンモニア混焼、水素発電設備の導入

⇒低炭素発電設備の導入などが進み、発電設備へ供給するアンモニア/水素などのインフラ設備の建設需要が増加

●一般化学、非鉄金属業界

脱炭素社会実現に向けた半導体製造に関する高機能材や電子材料の需要が旺盛

⇒高機能材製造プラントや電子材料工場建設需要が増加

●建設業界

工事従事者の不足の顕在化や時間外労働上限規制の適用

- 
- ・メンテナンスでの安定した収益確保と成長分野への積極的な取り組みを継続
 - ・時間外労働上限規制の対応は、前期より前倒しで対策を行い、今期以降も継続

2) 業績概要

- 期初予想より、受注高は増加、完成工事高は同水準、各利益は期初予想を上回る
- 前期比では、完成工事高の増加に伴う増益により、各利益は前期を上回る

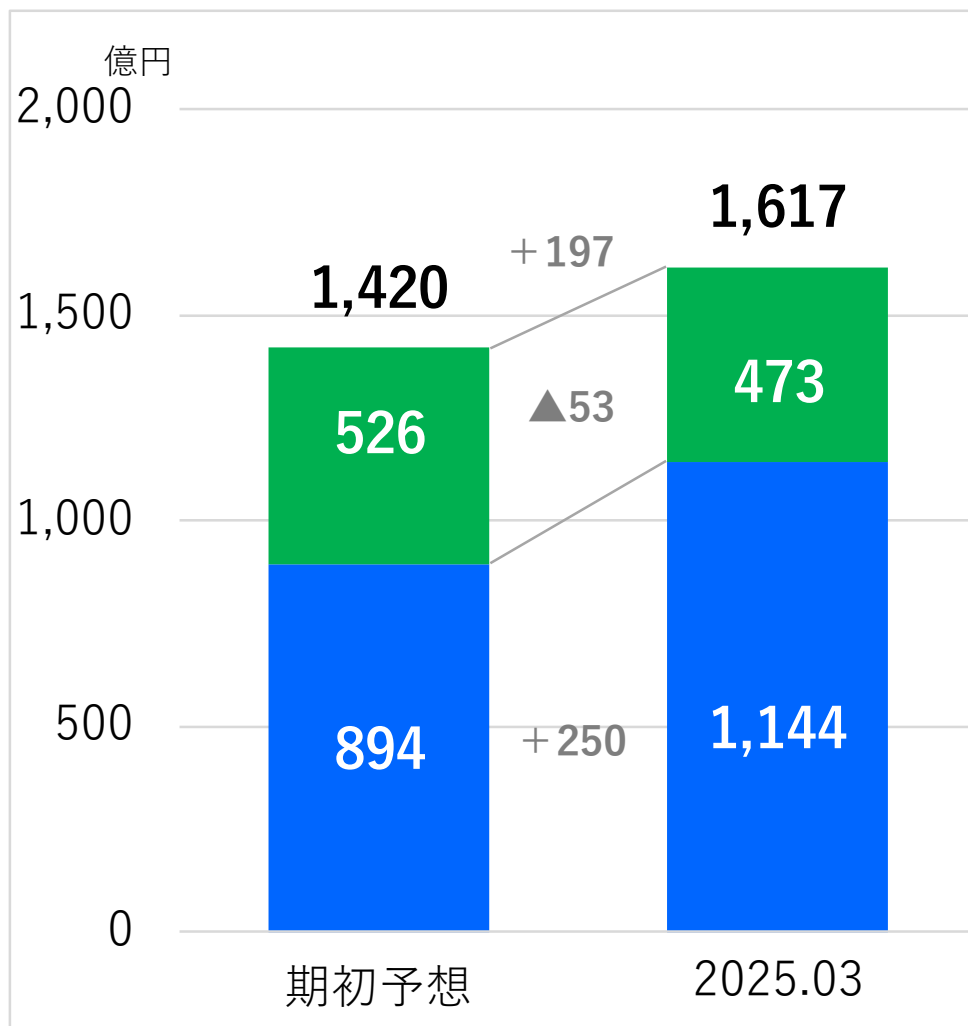
(参考) (単位：億円)

	期初予想	2025.03	増減	増減率	前期 (2024.03) との差異		
					前期比	増減率	
受 注 高	1,420	1,617	+197	+13.9%	1,517	+99	+6.6%
完 成 工 事 高	1,560	1,573	+13	+0.9%	1,403	+170	+12.1%
完成工事総利益	177.5	189.2	+11.7	+6.6%	172.0	+17.2	+10.0%
(率)	11.4%	12.0%	+0.6%	—	12.3%	-0.3%	—
営 業 利 益	93.5	108.5	+15.0	+16.1%	99.6	+8.8	+8.9%
(率)	6.0%	6.9%	+0.9%	—	7.1%	-0.2%	—
経 常 利 益	95.0	110.9	+15.9	+16.8%	102.6	+8.3	+8.1%
(率)	6.1%	7.0%	+0.9%	—	7.3%	-0.3%	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	66.5	81.0	+14.5	+21.8%	72.4	+8.5	+11.7%
(率)	4.3%	5.1%	+0.8%	—	5.2%	-0.1%	—

3) 受注高

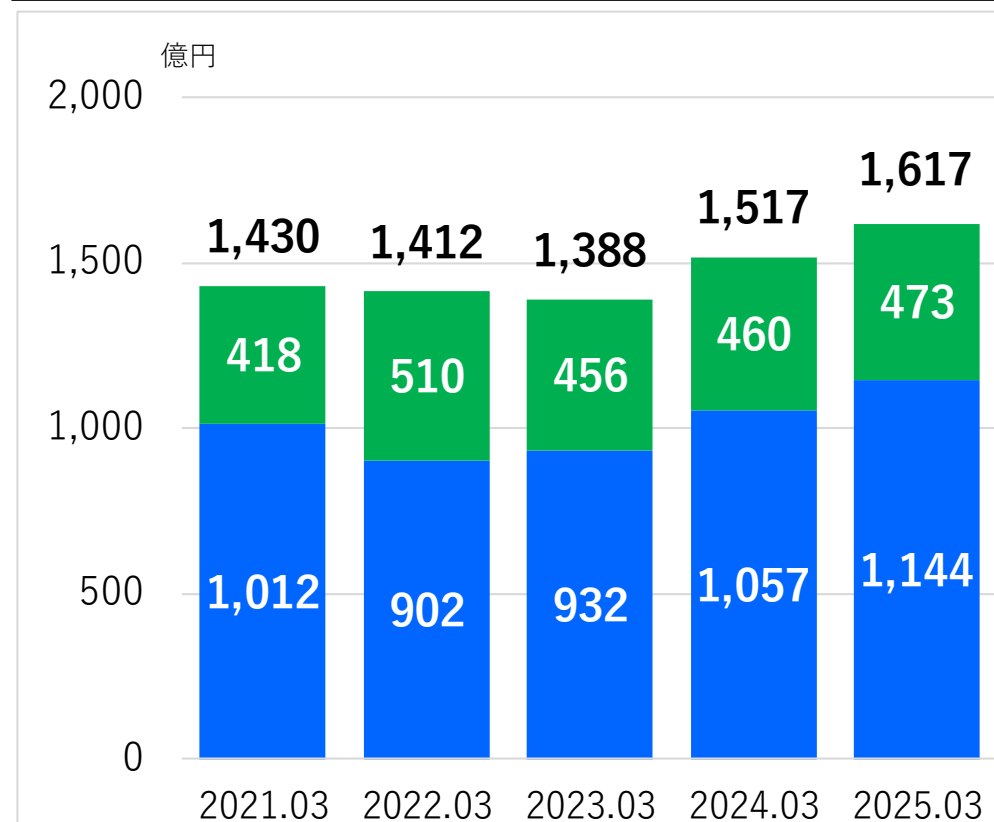
- メンテナンスでは、定期修理工事の工事量の増加などにより期初予想を上回る
- エンジニアリングでは、一部工事で顧客の計画延期や見直しなどがあり期初予想を下回る

期初予想対比



5カ年推移

- メンテナンスは、概ね900億円～1,100億円で推移
- エンジニアリングは、概ね400～500億円で推移
- 受注高全体は、当期は過去最高の受注高を確保

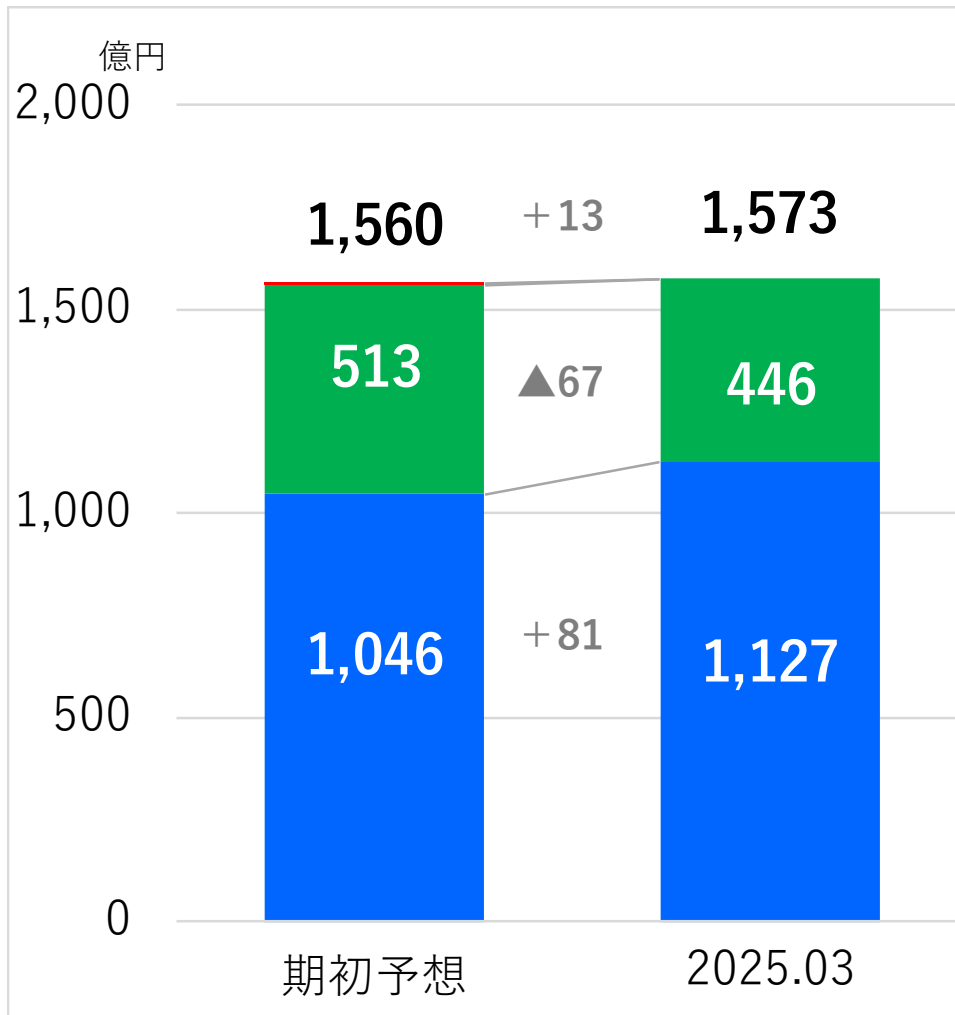


■ メンテナンス ■ エンジニアリング

4) 完成工事高

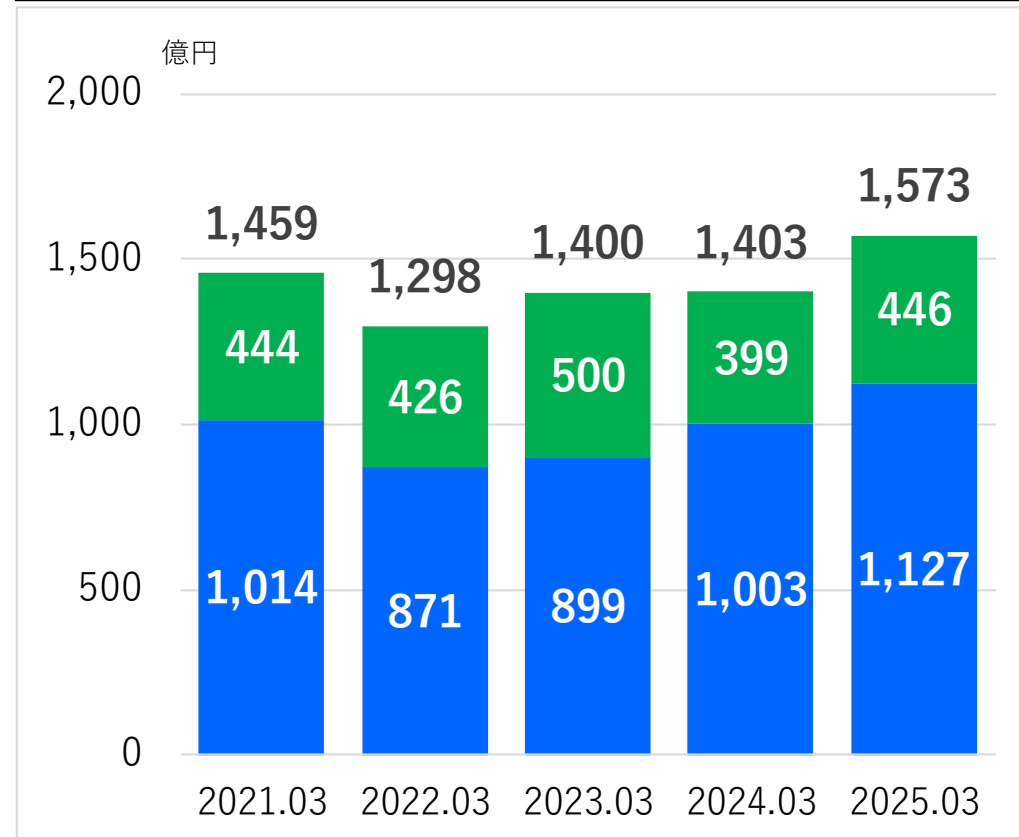
- メンテナンスでは、定期修理工事の工事量の増加などにより期初予想を上回る
- エンジニアリングでは、一部の大型工事の期ずれなどにより期初予想を下回る

期初予想対比



5カ年推移

- メンテナンスは、定期修理工事の周期により変動
- エンジニアリングは、受注と同様に安定的に推移
- 完工高全体は、当期は過去最高の完工高を確保

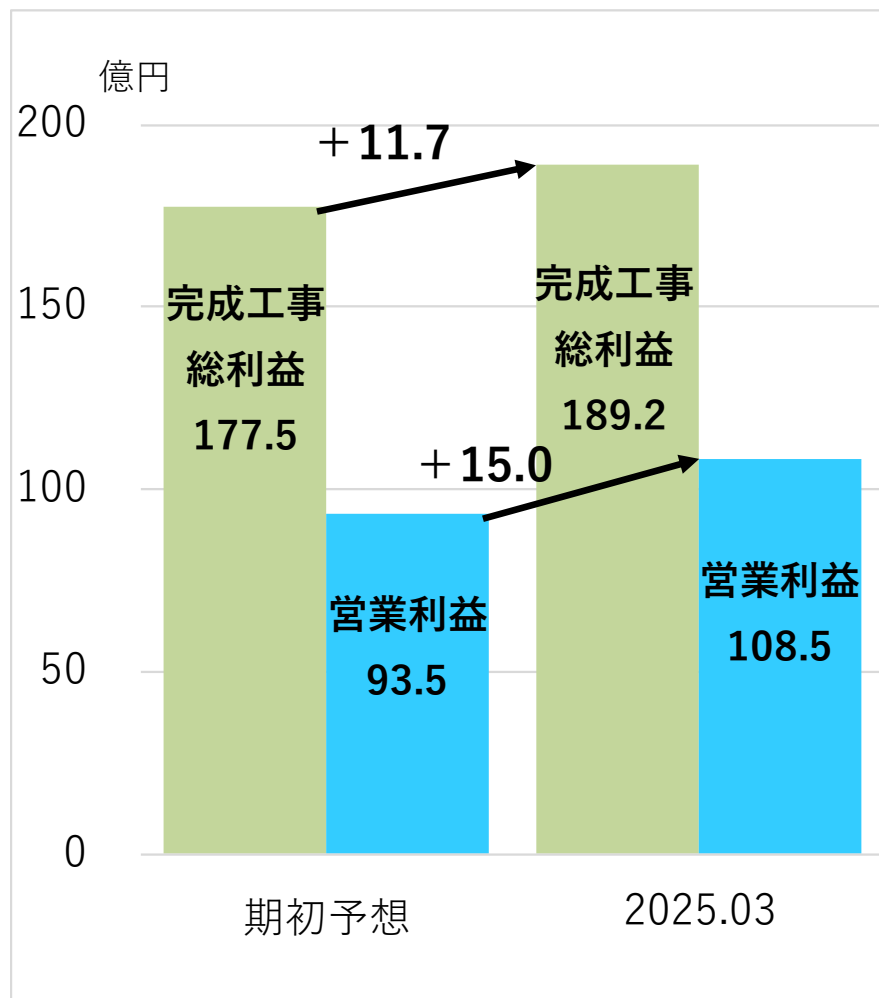


■ メンテナンス ■ エンジニアリング

5) 完成工事総利益・営業利益

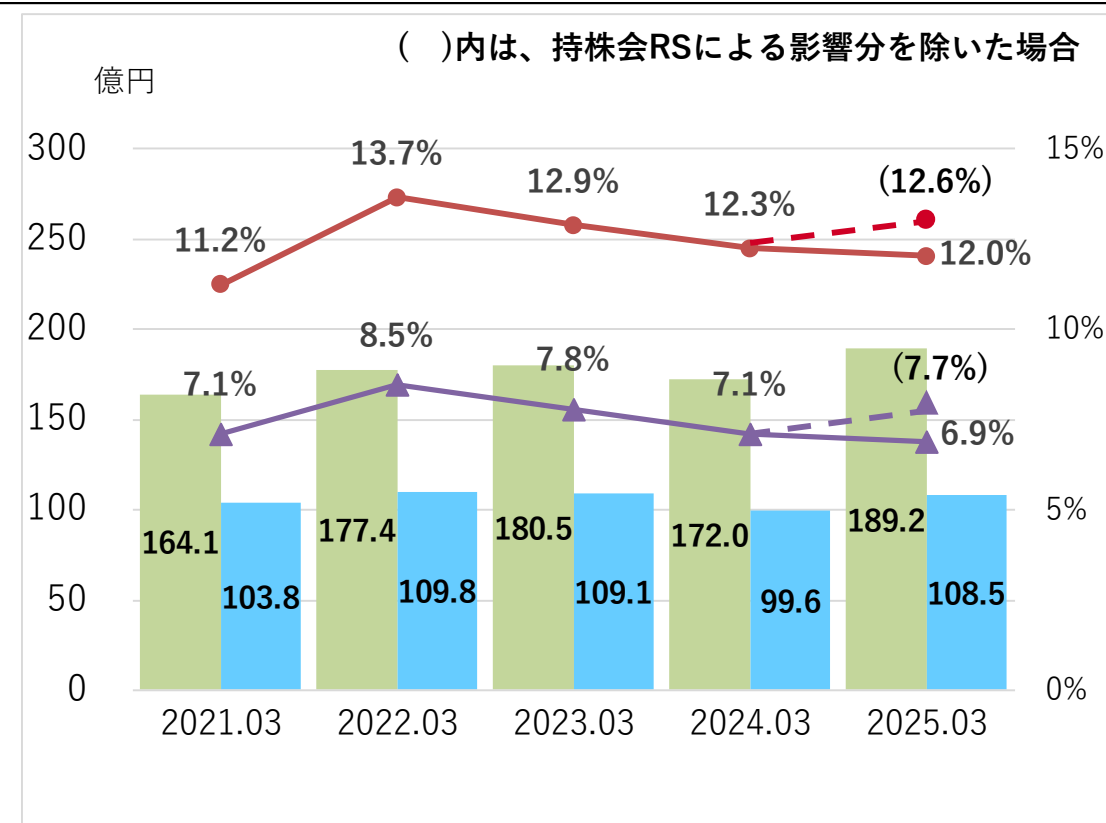
- 総利益は、効率的な工事遂行などにより、期初予想を上回る
- 営業利益は、総利益の増加などにより、期初予想を上回る

期初予想対比



5カ年推移

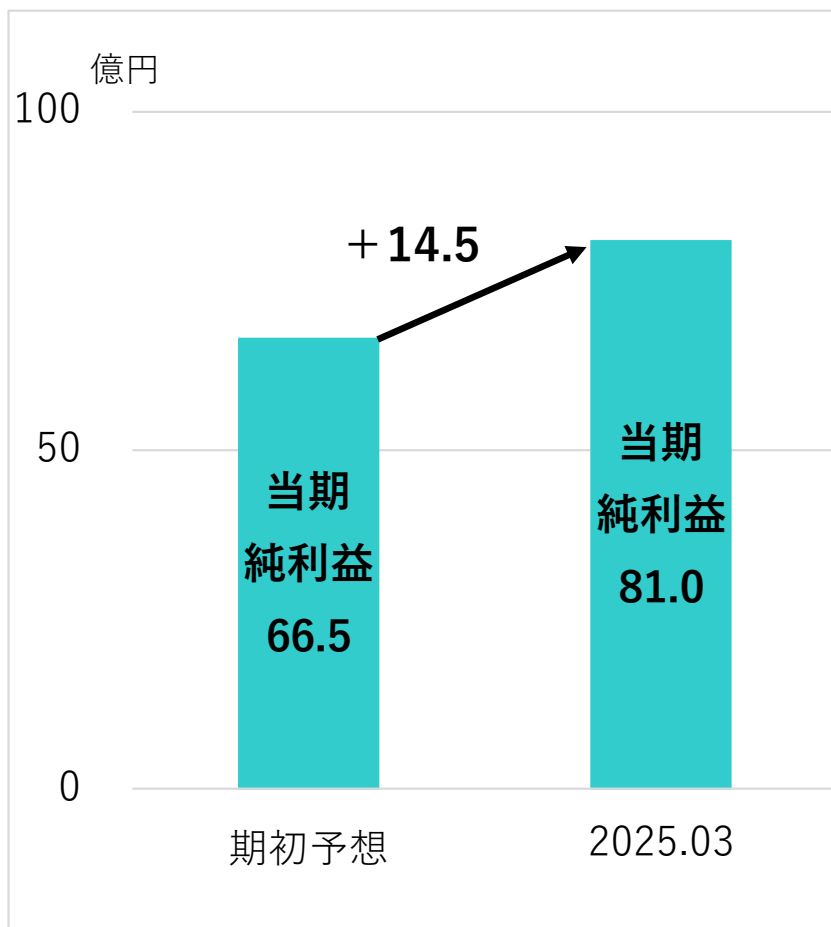
- 完成工事総利益率は概ね12%以上を確保
- 営業利益率は7%以上を安定的に確保
- 人的資本投資(持株会RS)を除くと例年と同水準の利益率



6) 当期純利益

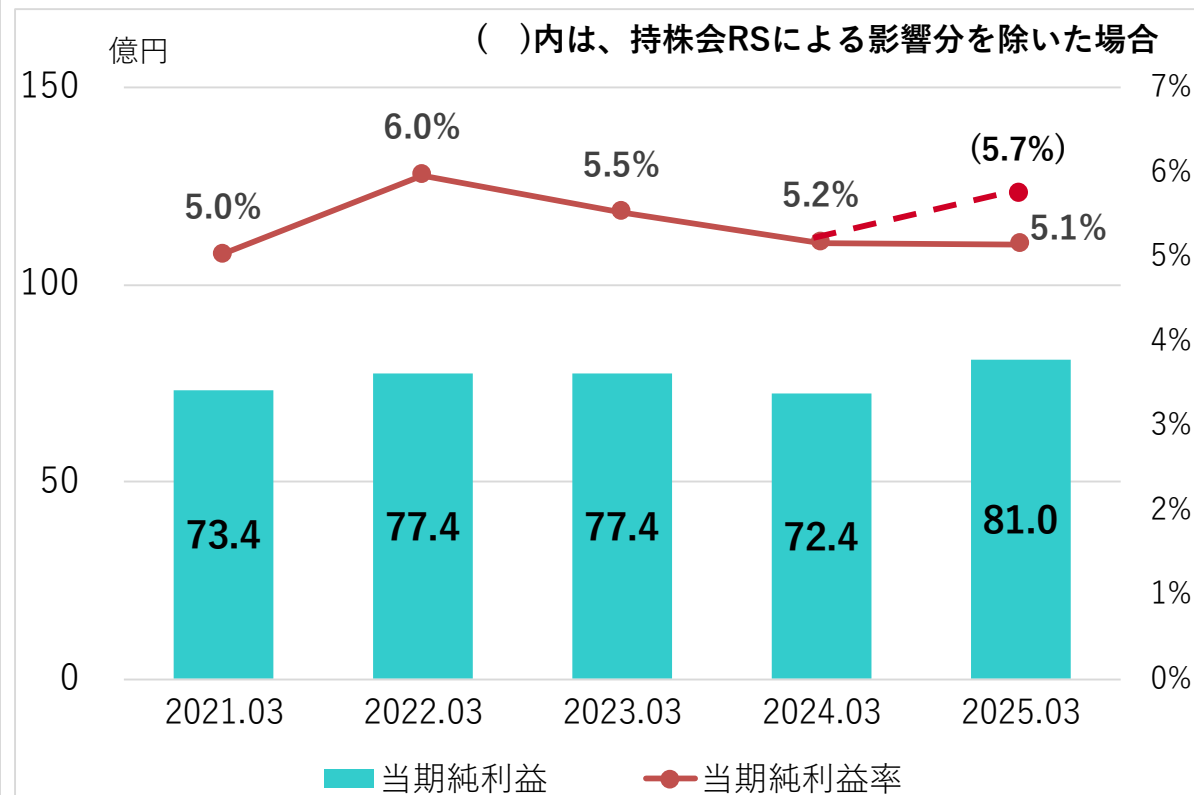
- 営業利益の増加に加え、政策保有株式の売却益の増加により、期初予想を上回る

期初予想対比



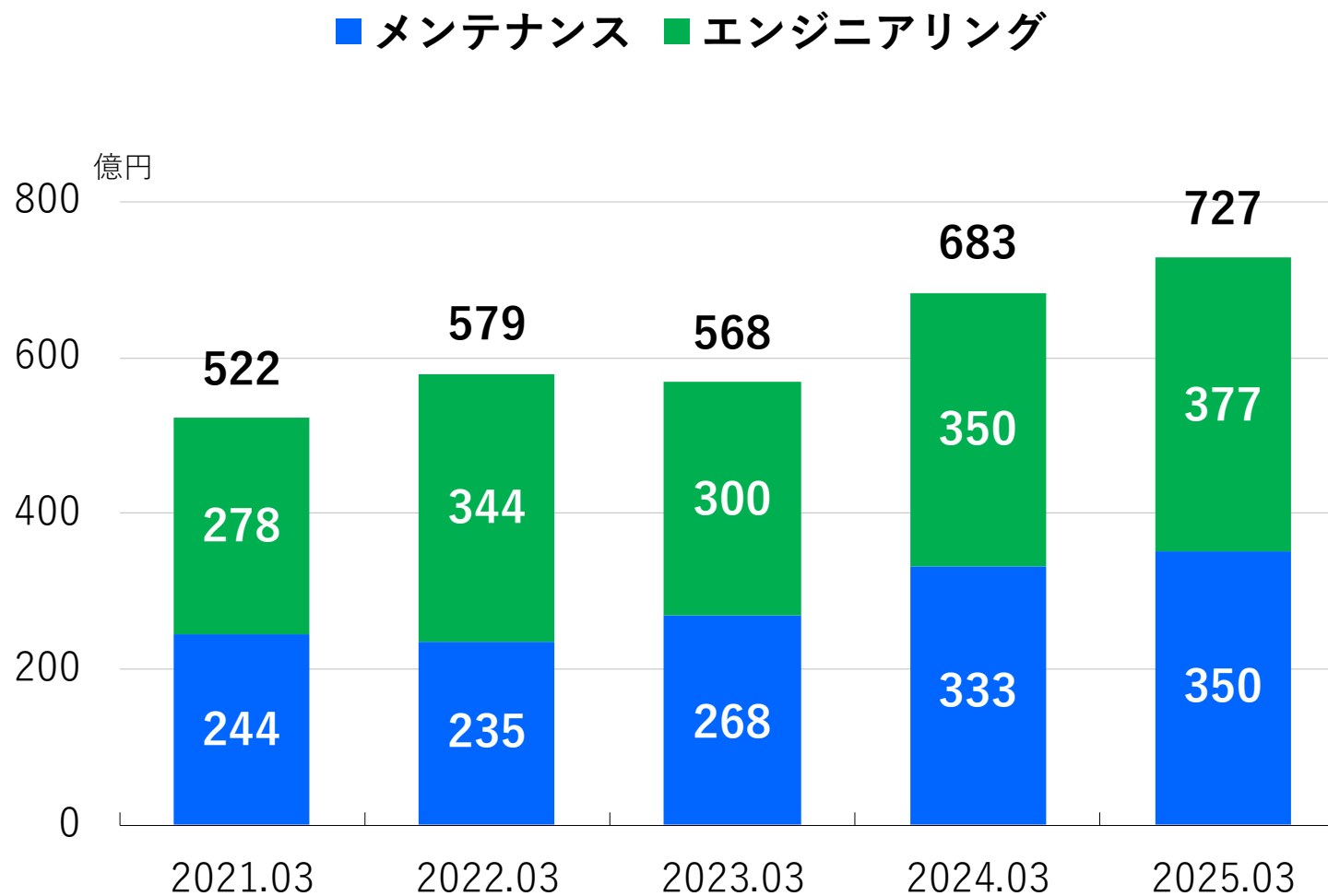
5力年推移

- 当期純利益率は5%以上を安定的に確保
- 人的資本投資(持株会RS)を除くと例年と同水準の利益率



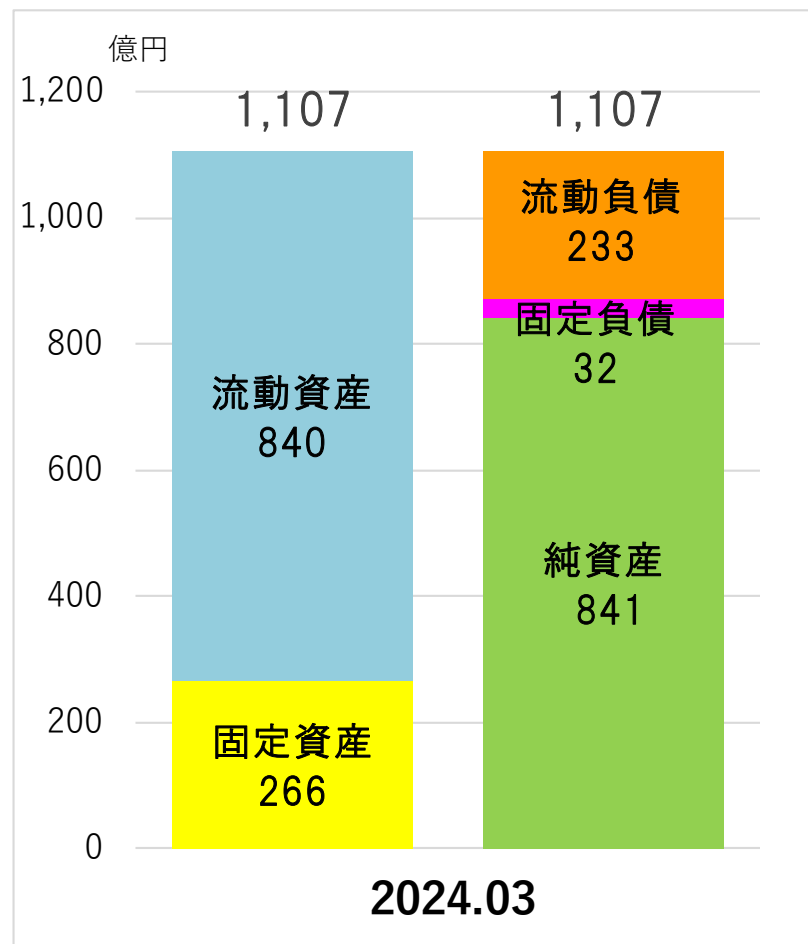
7) 受注残高

➤ メンテナンス、エンジニアリングともに前期比で増加

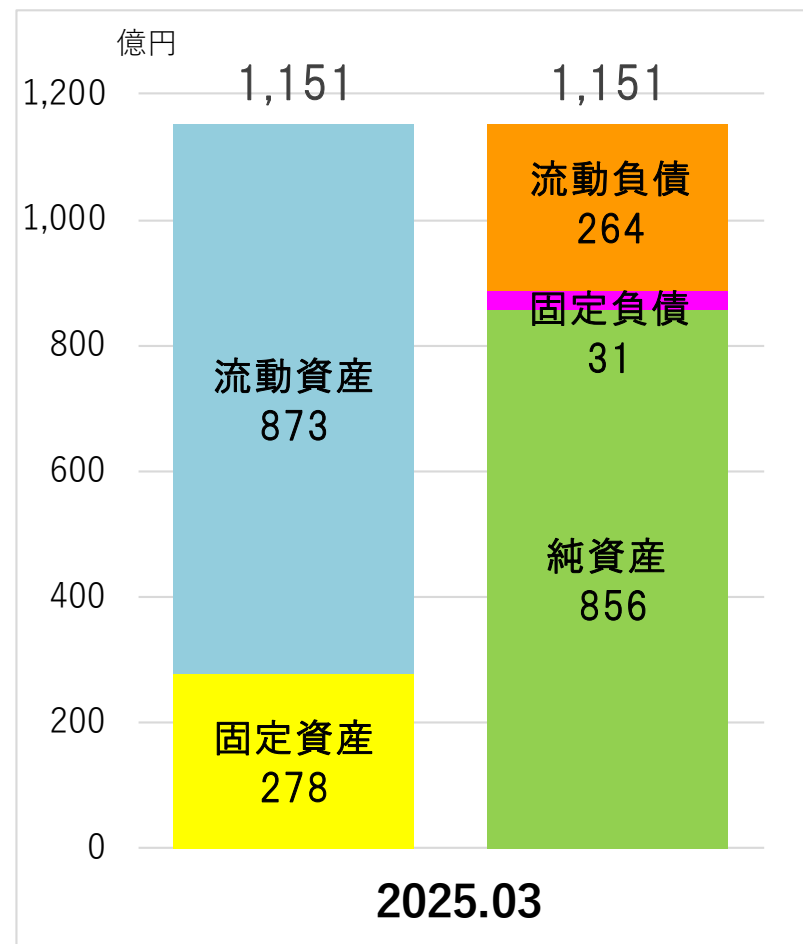


8) 貸借対照表

- 資産の部 . . . 流動資産で大型工事の売掛金（完成工事未収入金）等が増加
- 負債の部 . . . 流動負債で未払法人税等が増加
- 純資産の部 . . . 配当支払いなどによる減少があったが、利益計上により利益剰余金が増加
- 自己資本比率は73.8%、ROE（自己資本当期純利益率）は9.6%



自己資本比率 : 75.2%
ROE : 8.7%



自己資本比率 : 73.8%
ROE : 9.6%

2. 2026年3月期業績見通し

1) 業績見通し

- 受注高は前期より減少、完成工事高は同水準
- 総利益、営業利益は前期より増加、当期純利益は同水準

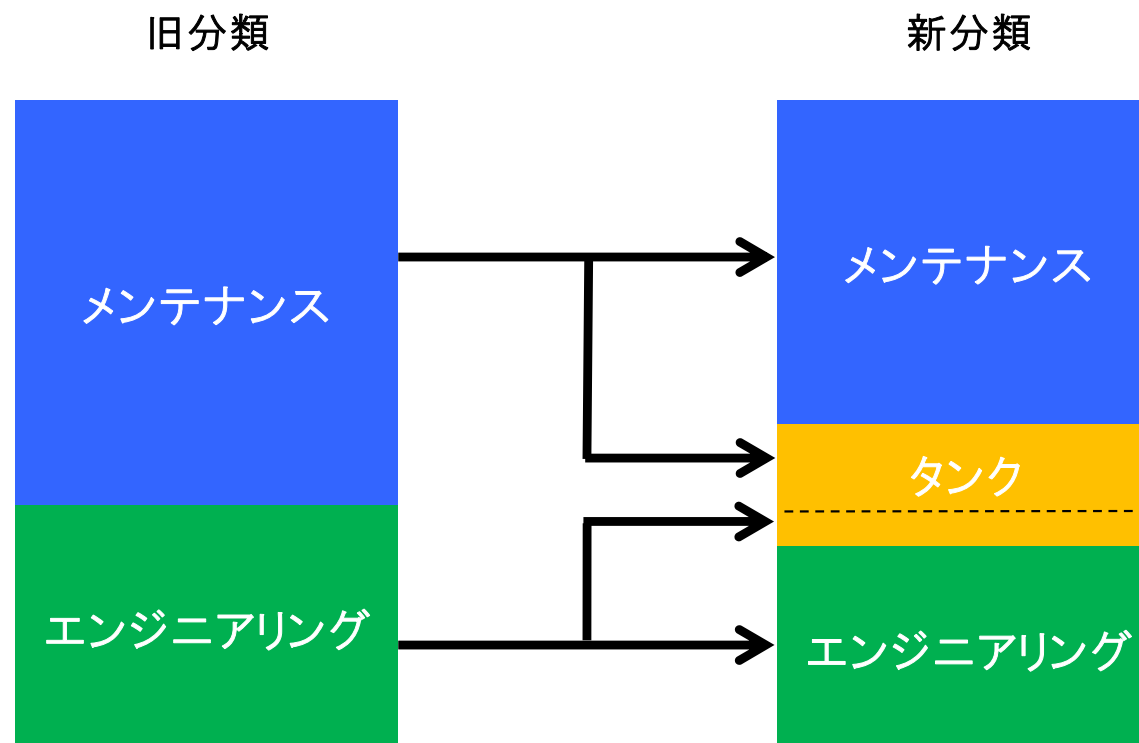
(単位：億円)

	中 間 期				通 期			
	2024.09 実績	2025.09 予想	増減額	増減率	2025.03 実績	2026.03 予想	増減額	増減率
受 注 高	736	800	+64	+8.7%	1,617	1,470	-147	-9.1%
完 成 工 事 高	751	840	+89	+11.9%	1,573	1,575	+2	+0.1%
完成工事総利益	74.7	110.5	+35.8	+47.9%	189.2	202.0	+12.8	+6.8%
(率)	9.9%	13.2%	+3.3%	-	12.0%	12.8%	+0.8%	-
販 管 費	39.6	43.0	+3.3	+8.5%	80.6	86.0	+5.3	+6.6%
(率)	5.3%	5.1%	-0.2%	-	5.1%	5.5%	+0.4%	-
営 業 利 益	35.1	67.5	+32.4	+92.3%	108.5	116.0	+7.5	+6.9%
(率)	4.7%	8.0%	+3.3%	-	6.9%	7.4%	+0.5%	-
経 常 利 益	36.3	68.5	+32.2	+88.7%	110.9	118.5	+7.6	+6.9%
(率)	4.8%	8.2%	+3.4%	-	7.0%	7.5%	+0.5%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	26.3	46.5	+20.2	+76.8%	81.0	81.0	+0.0	+0.0%
(率)	3.5%	5.5%	+2.0%	-	5.1%	5.1%	+0.0%	-
1株当り当期(中間)純利益	49.34円	86.62円	+37.28円	+75.6%	150.89円	150.88円	-0.01円	-0.0%
受 注 残 高	668	687	+19	+2.8%	727	622	-105	-14.4%

2) 受注高および完成工事高

①開示分類の変更

- 中期経営計画における分類（メンテナンス・タンク・エンジニアリング）に合わせて、開示分類を変更
- 開示分類を2つの分類から、「メンテナンス」「タンク」「エンジニアリング」の3つの分類に変更

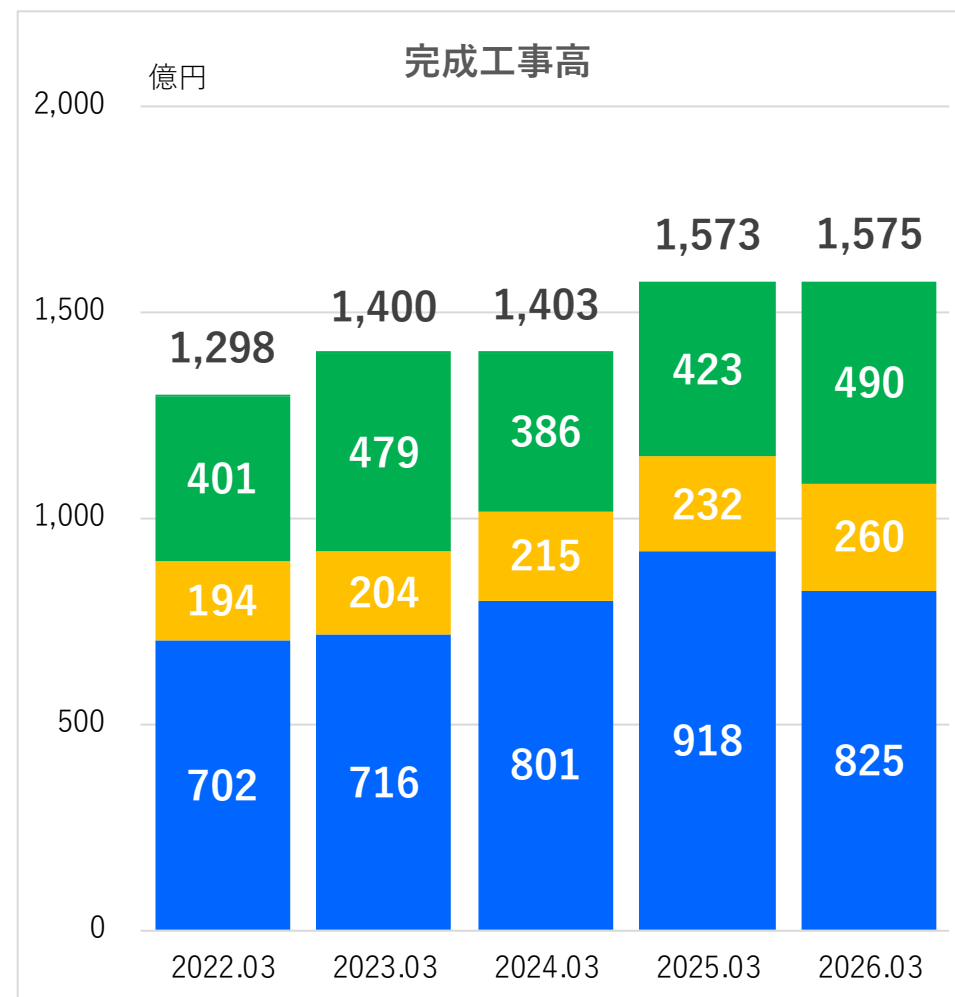
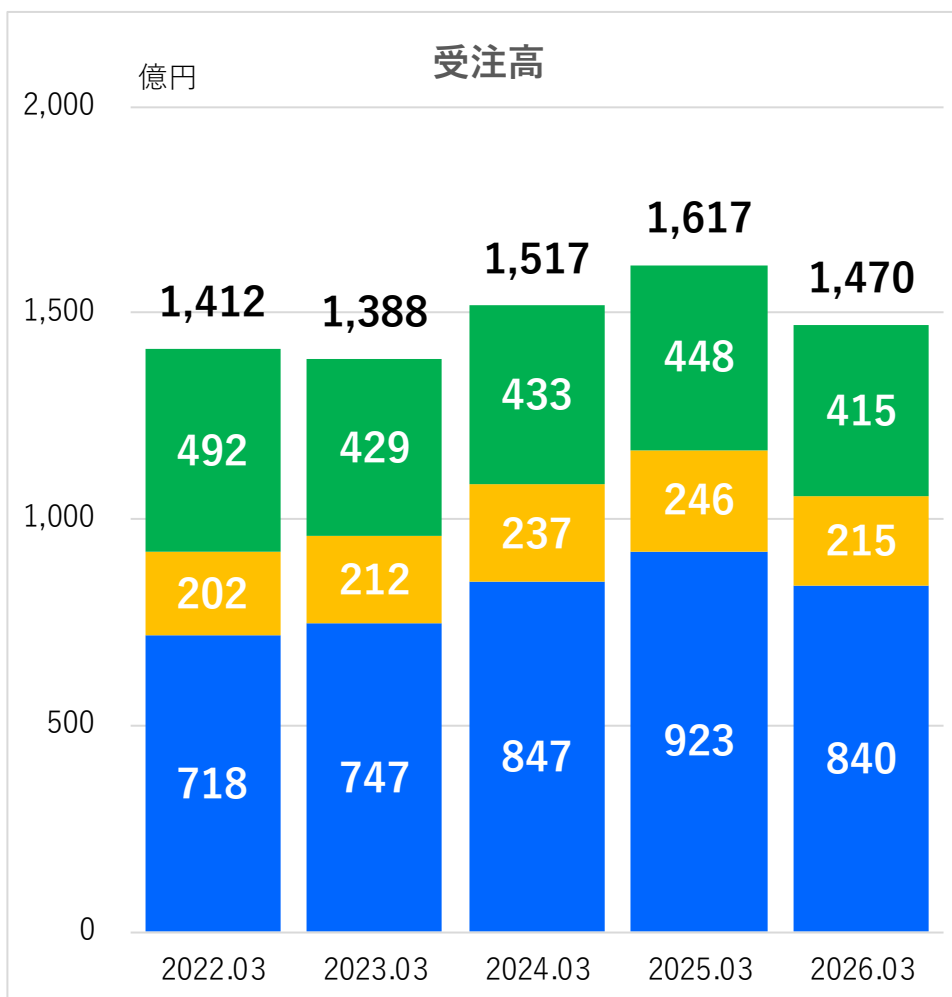


2) 受注高および完成工事高

②新開示分類での予想

- 受注高は、メンテナンスで定修がピークの翌年度にあたるため、前期より減少の予想
- 完成工事高は、メンテナンスは受注高の減少に伴い、前期より減少の予想、エンジニアリングは過年度の大型受注案件の工事進捗が進むことにより、増加の予想

■ メンテナンス ■ タンク ■ エンジニアリング



3) 2025年3月期配当予定および2026年3月期配当予想

2025年3月期配当予定

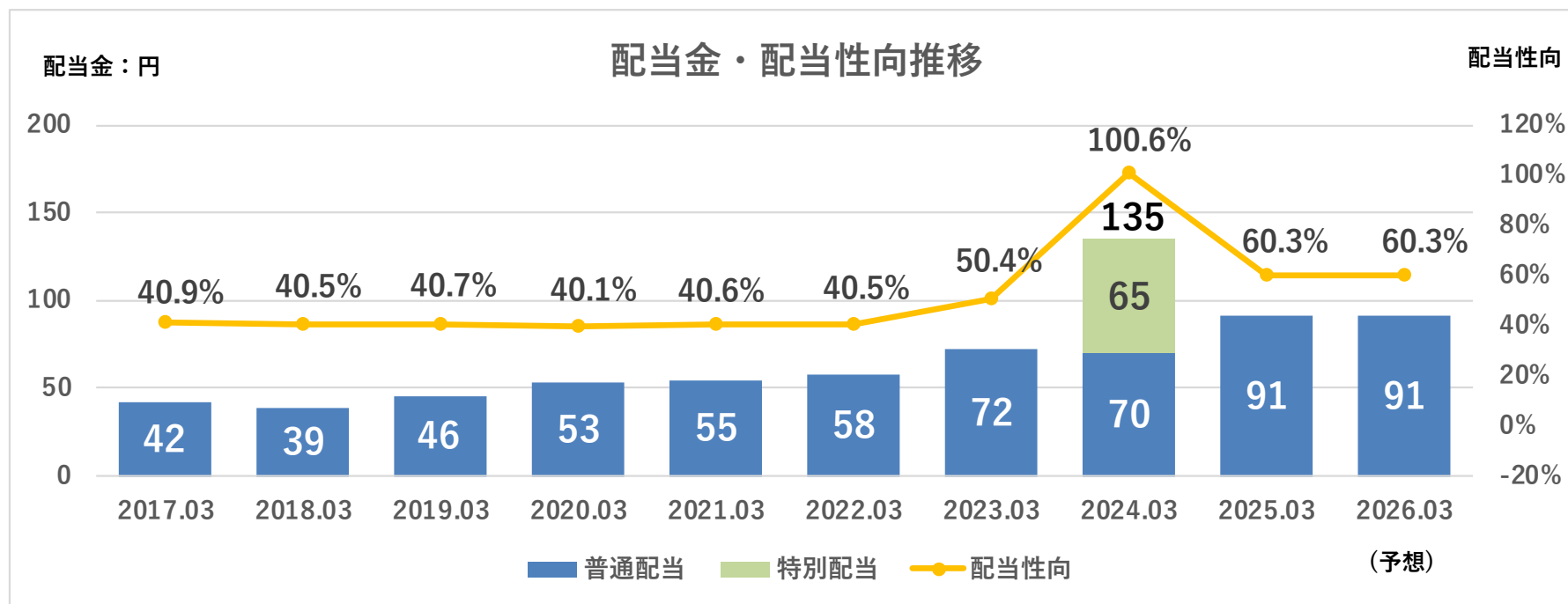
年間配当 91円（中間配当35円、期末配当56円）

連結配当性向 60.3%

2026年3月期配当予想

年間配当 91円（中間配当 45円、期末配当 46円）

連結配当性向 60.3%



注) 上図のグラフの2020.03の数値は負ののれん発生益(55億円)を除いて算出している。

3. 第3次中期経営計画

第2次中期経営計画の成果

業績関連目標は全て達成、ROE、連結配当性向はいずれも目標達成

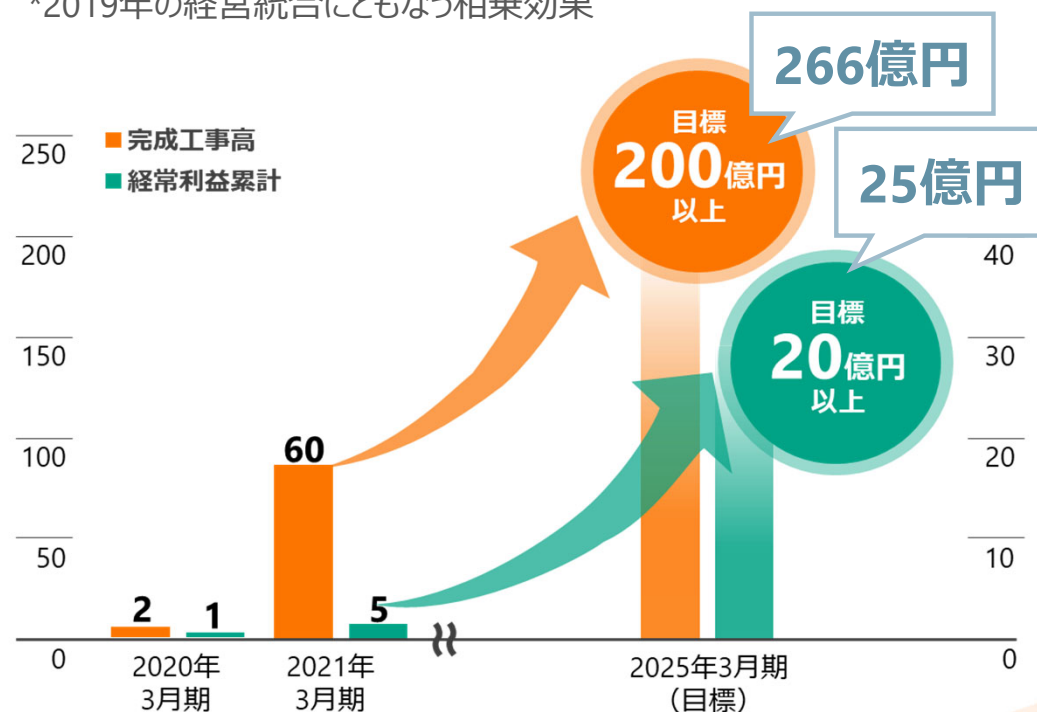
2024年度連結(2025年3月期)

(億円)	第2次中計目標	実績
完成工事高	1,450	1,573
営業利益	105	108
当期純利益	70	81
ROE	8.0%	9.6%
配当性向	40%以上	60%

経営統合によるシナジー効果

第2次中計テーマ「シナジー効果*創出 20億円」目標達成

*2019年の経営統合にともなう相乗効果



第2次中期経営計画の振り返り

取組みの成果



経営基盤の強化

- ・コーポレートガバナンス・リスクマネジメント体制の整備、安全・品質管理体制の高度化
- ・サステナビリティ経営の推進体制の整備
- ・働き方改革に向けた制度、インフラ整備



メンテナンス事業の強化

- ・事業部統合による人員配置の適正化
- ・協力会社を含めた技能者育成や施工体制の強化
- ・安全性向上、効率化に向けた施工作業の自動化、機械化の推進



エンジニアリング事業の強化

- ・カーボンニュートラル(CN)社会に向けた新規分野の受注
- ・設備計画や検討段階からの積極的参入
- ・化学・半導体・非鉄金属分野での受注拡大



タンク事業の強化

- ・全国事業所ネットワークを活かした受注拡大
- ・生産性向上に向けた自動溶接技術の導入
- ・CN案件(低温タンク)分野への進出準備

今後の取組み

▶各体制やインフラの適切な運用と強化

社会から信頼・評価される会社を目指し、ガバナンス強化、人材確保と育成、安全・品質の向上に努める。

▶メンテナンスの高度化

コア事業としての競争力を一層強化するべく、生産性向上を目指し、リソース管理の高度化、更なる機械化・自動化を加速する。

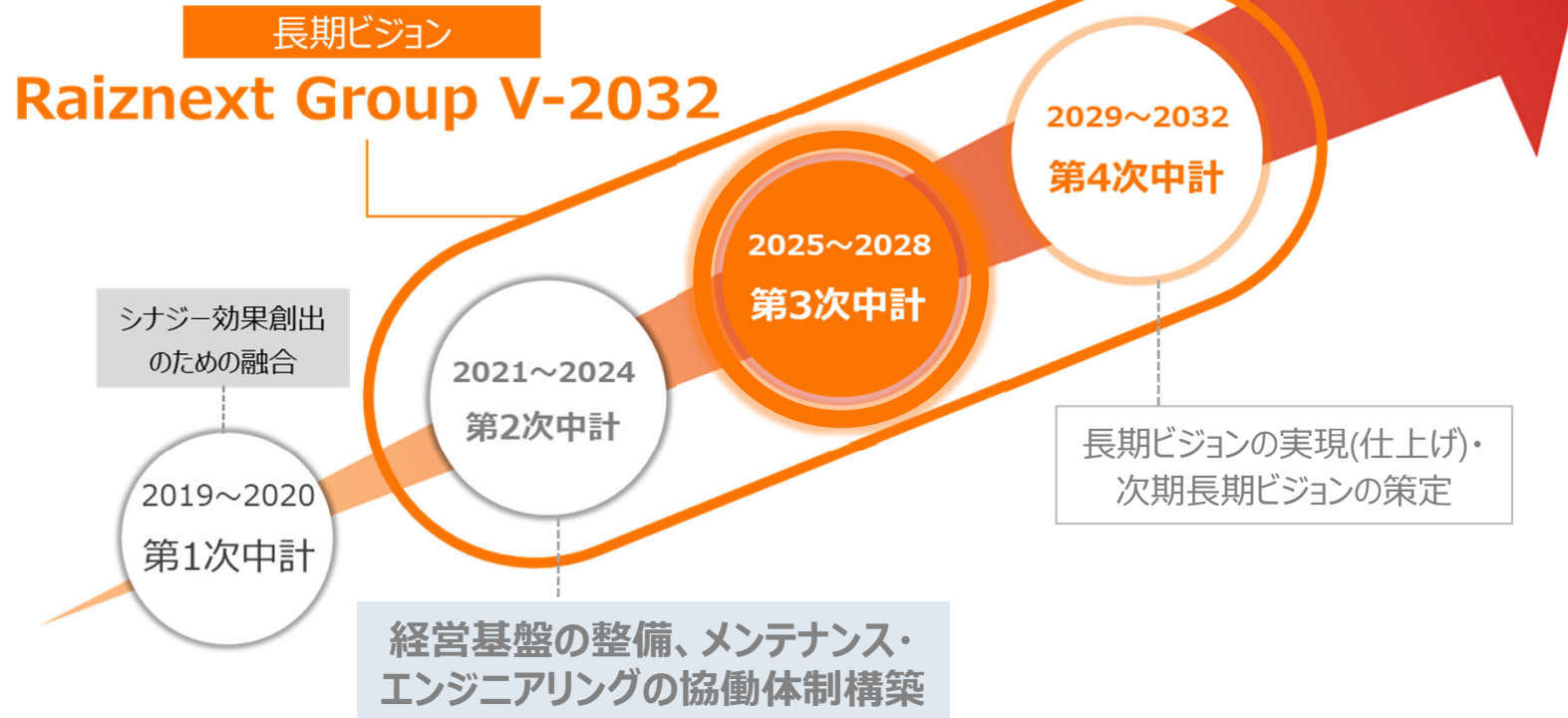
▶エンジニアリングの高度化・遂行力アップ

GX推進に伴う設備投資拡大に対応すべく、DX推進によるエンジニアリングの高度化・遂行力強化を目指す。

▶CN案件受注体制の確立

水素社会の到来に備え、低温タンク分野への進出を目指すとともに、検査ロボットの開発など自動化の推進を行う。

第3次中期経営計画の基本戦略



事業環境認識

- ESGに関する社会意識の高まり
- カーボンニュートラル社会へのシフト
- 建設業界における労働人口減少
- デジタル革命の進展への対応

第3次中計 基本戦略

- 経営基盤：ガバナンス強化、人材確保と育成、安全・品質向上
- メンテナンス事業：コア事業としての競争力の更なる強化
- エンジニアリング事業：高度化・遂行力アップ
- タンク事業：事業領域拡大（LNG/液化水素タンク）

長期ビジョン達成のため第2次中計で構築した基盤・体制をもとに更にチャレンジが必要

第3次中期経営計画のテーマ

変革への挑戦

RAIZNEXT



CHALLENGE

第3次中期経営計画では、持続的な成長と企業価値の向上を目指して、カーボンニュートラル社会実現に貢献するための事業変革、デジタルを活用した業務プロセスの変革など、従来のやり方にとらわれず、あらゆる変革（X:トランスフォーメーション）に挑戦していく。

第3次中期経営計画の取組み

各事業の トランスフォーメーション



メンテナンス事業の“X”

● メンテナンスのDX推進

- ・施工作業の更なる機械化/自動化による安全性向上、省力化、効率化
- ・次世代メンテナンス技術の開発/導入
- ・施工管理業務の高度化



エンジニアリング事業の“X”

● エンジニアリングのDX推進

- ・3D設計/AI設計推進、BIM/CIM構築
- ・先進的プロジェクト管理システム導入
- ・高度な解析ソリューション



タンク事業の“X”

● GXへの挑戦

- ・低温タンク(LNG/液化水素)分野での受注体制構築
- ・製作/検査のロボット化
- ・自動溶接の現場実装



経営基盤の“X”

● DXによる業務プロセス改革

- ・安全/品質管理の高度化
- ・業務改革の推進
- ・データドリブン経営

● 人的資本投資の加速

- ・人材の育成
- ・健康経営の促進
- ・新しい働き方の推進

第3次中期経営計画経営数値目標

2028年度 (2029年3月期)		
業績目標	売上高	1,710 億円
	営業利益	136 億円
	当期純利益	93 億円
経営指標の 目標値	ROE	9.5 %以上
	配当性向	60 %以上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

2024年度までの取り組み

収益性の向上

- 全国ネットワークを活かした受注拡大
- 事業部統合や体制見直しによるリソース活用の効率化

資本効率の向上

- 賃貸不動産・遊休不動産の売却完了
- 政策保有株式の売却の進展
25年3月末投資有価証券
- 対純資産比率5.5%
- 2019年当社発足時より
簿価ベース6億円縮減

株主還元の充実

- 配当方針を配当性向60%以上に変更
- 5周年記念の特別配当実施

IR活動の強化

- 日経IR・個人投資家フェア2024に出展
- 個人投資家向けセミナー参加（計2回）
- 発行体格付『A-』を取得

長期的にROE10%以上を目指すために4つの施策を継続実施

収益性の向上

- Xチャレンジ施策の確実な実行
- DX推進による施工管理、設計技術の高度化・効率化
- データドリブン経営へのシフト

資本効率の向上

- 2028年度(第3次中計最終)
ROE目標9.5%とし長期的に
10%を目指す
(第2次中計目標8%から引上)

株主還元の充実

- 配当性向60%以上を維持
- 株主優待の導入

IR活動の強化

- 個人投資家向けIRの拡充
- 情報発信のタイミングと頻度
適正化による対話促進

この資料には、2025年5月21日現在の将来に関する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動などに伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

レイズネクスト株式会社

〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8

経営企画部 広報・IRグループ

TEL：045-415-1500／FAX：045-415-1120

E-MAIL：ir-info@raiznext.co.jp

URL：https://www.raiznext.co.jp



レイズネクスト株式会社